

埼玉アーツシアター通信

勝村政信
野村万作
ヘンリー八世
NHK交響楽団
佐藤俊介



SAITAMA
ARTS THEATER
PRESS
VOL.82

2019.8-9





Tribute to 蜷川幸雄

9

勝村政信

観た人の心にトゲが刺さる芝居



かつむらまさのぶ
2年間ニナガワ・スタジオに所属し、「第三舞台」で活躍。「近松心中物語」、「マクベス」、「コリオレイナス」、「表裏源内蛙合戦」、「コースト・オブ・ユートピア」など多数の蜷川作品に参加した。現在出演ドラマ「Heaven?〜ご苦楽レストラン〜」(TBS)が放映中。

取材・文 ●
上野紀子 (演劇ライター)

「演劇界が寂しいな、ってずっと思っています。蜷川さんはつねに事件を起こしてきた人だから」

蜷川舞台に欠かせなかった俳優陣の中で、信頼度の高さはもとより、巨匠に対して「歯に衣着せぬ」稀少な存在だった勝村政信さん。その愛あふれる憎まれ口や辛辣な意見を、「コノヤロー」と嬉しそうに受け止めていた蜷川さんの笑顔が思い出される。

「僕はニナガワ・スタジオから第三舞台という劇団に移りました。それから蜷川さんには、7年くらい口をきいてもらえませんでした(笑)。ある時、突然僕の芝居を観に来て『そろそろ一緒にやるか』って。そこでまた関係が復活しました。僕は蜷川さんに『シェイクスピアはやりません』と言いました。シェイクスピアは素晴らしいでしょ。安心して観てられる。僕は安定した物語に興味がないんです」

それでも、俳優仲間「勝村と一緒にやりたい」と請われて蜷川シェイクスピアも経験。現場で臆することなく主張すればするほど、演出家との信頼関係は揺るぎないものとなっていった。ご当人は淡々と「普通の関係だと思っている」と振り返る。

「日本では演出家が偉くて、俳優は従うもの……といった構図がまだあって、いまだに演出家を“先生”と呼ぶ俳優もいる。蜷川さんは昔から『先生と呼ぶのはやめてくれ』と言っていました。それと『世界に向かえ。俺に向かって芝居をするな』と。だから蜷川さんの芝居に出る役者は、皆、無駄に声デカイでしょ(笑)。嫌がってる人もたくさんいました(笑)。でもそれは、既成のプロセニアムの劇場空間を越え



『零れる果実』(1996年) 写真提供 © Bunkamura Photo © 谷吉正彦

ようとする蜷川メソッド。反逆の叫びなんです」

蜷川作品における自身の役割とは? そんな直球質問の答えも実に爽快だ。

「すごい武器だったんじゃないですかね。蜷川さんは『お前がいれば大丈夫だ』と言っていたし、僕もそう思っていた。第三舞台で習得した遊戯性と身体を駆使するメソッドは、蜷川さんのメソッドにはありませんから。小劇場の身体性と蜷川さんのどこにも属したがない距離感。その両方を持った肉体が、当時はたぶん僕しかいなかったんです」

武器と自負する証が、『零れる果実』(1996年)、『パンドラの鐘』(1999年)、『祈りと怪物〜ウィルヴィルの三姉妹〜』(2013年)への出演だ。同じ戯曲を二人の演出家が競作するこのシリーズで、勝村さんは三作品すべての蜷川演出版に出演した、ただ一人の俳優である。

「蜷川さんvs佐藤信さん、野田秀樹さん、KERAさん。素晴らしい演出家たちが競作するあんな馬鹿げた派手な企画、もうやれませんか。蜷川さんはそうやって事件を起こすんです」

寂しげにつぶやくも、虎視眈々と事件を狙う野望の火は消えていない。穏やかに、自らに語るように放った言葉は、巨匠に向けた宣言のようでもあった。「観た人の心にトゲが刺さったまま、ずっと疼いてやまない。そんな芝居、今は誰も求めていません。でも今後もそんな芝居を続けていくつもりです。僕は死ぬまで蜷川さんの弟子ですから」



Photo © 宮川舞子

CONTENTS

- 4 PLAY > 岡田忠雄さん×遠山陽一さん×菅原直樹さん
- 6 PLAY > 『蜷の綿 -Nina's Cotton-』リーディング公演
- 8 PLAY > 新春狂言『万作・萬斎の世界』
- 10 PLAY > 彩の国シェイクスピア・シリーズ第35弾『ヘンリー八世』
- 12 MUSIC > 佐藤俊介とオランダ・バッハ協会管弦楽団
- 14 MUSIC > NHK交響楽団
下野竜也(指揮) 小山実稚恵(ピアノ)
- 16 舞台芸術資料室
- 18 REVIEW
- 20 イベントカレンダー／チケットインフォメーション／彩の国シネマスタジオ
- 23 REPORT
- 24 COLUMN > 林家彦いちの『一歩外へ』

編集 © 川添史子、榊原律子 表紙画 © 波多野光 デザイン © GOAT

© 公益財団法人埼玉県芸術文化振興財団 Published on 1. Aug. 2019 All Rights Reserved by Saitama Arts Foundation

※掲載情報は、2019年7月15日現在のものです。公演は追加および一部変更される場合がありますので、ご了承ください。



今日の舞台の感想を聞くと「俳優に向かって出来なんて聞いちゃダメ!」とおかしい。意識はプロそのものだ。

——遠山さんは昨年、菅原さん作・演出によって上演された世界ゴールド祭2018『よみちにひはくれない』浦和バージョンに出演。岡田さんは、岡山で上演されたオリジナルバージョンの出演者です。

遠山(以下金さん) はじめまして「さいたまゴールド・シアター」の遠山といいます。みんなからは、“(遠山の)金さん”と呼ばれています。私ね、東芝府中工場に昭和27年に入社して、60歳の定年まで44年間勤めたんです。聞くところによると、おかしも同じところにお勤めの時期があったとか。

岡田(以下おかし) ああそう! そうしたら私の方が大先輩。昭和18年に東芝に入って、途中、召集令状が来て戦争に行きました。それまで東京の府中工場にいました。そんな方とお会いできて、胸がいっぱいです。

金さん 本当に! 今日の芝居観てね、すごいと思いました。セリフは、ほぼ即興なんですってね。

——「ポータブルトイレシアター」は、認知症の妻を介護する老人“岡田さん”が

演劇に出会う物語で、ご本人の普段の生活が垣間見えるような、虚実皮膜の構造になっていましたね。ケアマネージャーの役を演じる菅原さんをはじめ、俳優のみなさんがきっかけのセリフを随所できちんと押さえ、それへのおかじの返答は即興的に演じられる、という構造でした。

菅原 おかしは舞台上がるとスイッチがオンになるんですよ。今日の公演、本当に素晴らしいと思っていました。僕たちは俳優というよりも、共演者という名の介護者。おかしの話が脱線したら戻していくという役割……だから我々のおかげでもありますよね(笑)。

おかし そうよ。でもね、「今日はうまくできた!」という日はありません。自己採点でも最高点は70点止まり。

金さん 私はいつも130点!

おかし そんな人いるのね〜、信じられません(一同笑)。

菅原 自己評価では、対照的な二人ですね(笑)。

演劇は人生、人生は舞台

菅原 おかしにとって、演劇とはなんですか?

おかし 演劇とは人生です。舞台に出ないみなさんも、それぞれ、人生という舞台を演じていらっしゃるでしょう? 日々、悲しみ、愛情、楽しさがあるでしょう。意識していないだけで、全ての人生そのものが、舞台なんですよ。

金さん 人生が舞台だとしたら、私は口だけで生きてる詐欺師みたいな役だろうなあ、口でもない人間だから(一同笑)。



岡田忠雄
Tadao Okada

菅原直樹
Naoki Sugawara

「老いと演劇」OiBokkeShiの看板俳優。定年退職後、映画俳優を目指して数々のオーディションを受け、今村昌平監督の『カンゾー先生』や『黒い雨』にエキストラで出演。2014年、88歳の時に菅原のワークショップへ参加。それをきっかけに、認知症の妻を在宅で介護しながら、菅原の舞台に立っている。

劇作家、演出家、俳優。青年団所属。「老いと演劇」OiBokkeShi主宰。2012年東京から岡山に移住し、介護福祉士として働きながら地域における介護と演劇の新しいあり方を模索し、現在、認知症ケアに演劇手法を活用した「老いと演劇のワークショップ」を全国各地で開催している。



菅原 そんなことないでしょう。でも、だから俳優やってるんじゃないですか?

金さん そうなのかなあ。でも蛭川さんから「金さん、もう俺はお前に芝居をつけない。何も言わない。お前が勝手にやったほうが面白い」って言われたことがあったの。あれは嬉しかった。

菅原 僕も「人間の持つ、味わいみたいなものが見たい」と思いながら舞台を作っているんですよ。どうしたら演出家として、そうしたものをうまく引き出せるかを常に考えています。高齢者演劇の役割を考えていくと、やりたいことが色々と思いつくんですよ。

金さん 監督(菅原)は本当に心が広いんだよ。昨年、演出を受けてみて、つくづくそう感じました。

菅原 お二人が僕が書いたセリフを喋る

と、自分で書いているのにも関わらず「こんな意味があるんだ」という発見がいくつもありました。人生の深みが滲み出てくるんです。

——おかしは、演劇で人生が変わりましたか?

おかし 変わりました。どのように変わったのかはじっくり考えないと返答できないけれど、確かに変わりました。舞台は、やったもんでないと分からない魅力がある。“役者冥利に尽きる”という瞬間があるんです。

菅原 今日400人近くのお客さんから拍手をいただいて、“役者冥利に尽きる”だったんじゃないですか?

おかし そう。“役者冥利に尽きる”ってことは、“人生冥利に尽きる”。誰にもあるでしょう? 顔が違うように、その人それ



ぞれの冥利があるんです。

金さん 私の人生は演劇で変わったのかなあ。共演者より、ちょっと演技が上手にできたときは嬉しいけど(一同笑)。あ、今思い出したけど実は私、岡山に住んでたこともあったの。勤め先、演劇、岡山。おかしとは3つの縁があるんです。

おかし そうなの? アツと驚く為五郎だね(笑)! 今日は金さんに初めてお会いしたけど、私の2倍3倍おしゃべりの上手なのがいてびっくりした!(一同笑)

菅原 普段からおかしと喋っているとあっという間に3時間ぐらい経っちゃいますけど、今日はその上をいくおしゃべりが登場……“3時間4時間”っていう漫才コンビが組めそうですね(笑)。



遠山陽一
Youichi Toyama

東京出身。1936年生まれ。1952年に中卒で東芝府中工場に入社、同時に小金井工業高校夜間部に入社。東芝に44年勤続して60歳で定年退職、在職中から参加していた地域活動を積極的に行う。2006年に彩の国さいたま芸術劇場芸術監督であった故・蛭川幸雄率いるさいたまゴールド・シアターに入団。

菅原は、「老いと演劇のワークショップ」や「よみちにひはくれない」を含めた高齢社会の問題を取り扱った演劇作品の創作が評価され、平成30年度(第69回)芸術選奨文部科学大臣新人賞(芸術振興部門)を受賞。
Photo©公益財団法人埼玉県芸術文化振興財団

特別
企画

おかし 金さん 93歳&83歳、 ついに対面!

岡田忠雄さん (OiBokkeShi)

遠山陽一さん (さいたまゴールド・シアター)

菅原直樹さん (OiBokkeShi主宰)

高齢者による舞台芸術の国際フェスティバル、世界ゴールド祭2018において

『よみちにひはくれない』浦和バージョンをつくり上げた菅原直樹さん。

彼が岡山で主宰する「老いと演劇」OiBokkeShi(オイ・ボッケ・シ)の作品『ポータブルトイレシアター』を引っさげ、

93歳の主演俳優“おかし”こと岡田忠雄さんとともに、3月東京へやってきた。

おかじの日々を舞台化した同作を、高齢者の演劇集団「さいたまゴールド・シアター」のメンバーで

“金さん”こと遠山陽一さんが観劇。終演後には、93歳のおかしと83歳の金さんによる、ビッグ対面が実現した。

取材・文●川添史子 Photo●宮川舞子



『よみちにひはくれない』

菅原が2015年に発表した『よみちにひはくれない』は、特別養護老人ホームでの勤務経験などを取り入れながら、岡山県和気町の商店街を舞台にした作品。昨年上演された「浦和バージョン」は、再開発が進むさいたま市浦和駅周辺に舞台を移し、さいたまゴールド・シアターやさいたまネクスト・シアターのメンバーらとともに作り上げた。



『ポータブルトイレシアター』

老老介護をしている「岡田さん」は演劇と出会い、演じる知恵を介護に活かすはじめる……。俳優・岡田忠雄の日常を完全舞台化した、2018年に岡山で初演された作品。この3月、生き方・介護・福祉のデザインを考える展覧会「おいおい老いの展」の関連イベントとして、東京公演が開催された。



蜷川幸雄 Photo©蜷川実花

彩の国さいたま芸術劇場開館25周年記念

『蜷の綿 -Nina's Cotton-』リーディング公演

+

関連企画『Tribute to 蜷川幸雄』

彩の国さいたま芸術劇場は、今年の10月15日、開館25周年を迎える。

これを記念し、2006年から2016年までの10年間、芸術監督として偉大な足跡を残した蜷川幸雄氏にちなんだ企画を開催。

リーディングから上映会まで、多角的に楽しめるイベントの全貌を紹介する。

文 ● 川添史子

『蜷の綿 -Nina's Cotton-』 リーディング公演

劇作家・藤田貴大氏（マームとジブシー）が、蜷川幸雄氏の依頼を受けて執筆した新作『蜷の綿 -Nina's Cotton-』。2016年、蜷川氏の体調不良によって公演は延期となり、幻の戯曲となっていたが、今回、リーディングの形で初演されることが決定した。埼玉県川口市で生まれ育った蜷川少年からの半生を描いた同作。演出は、長年蜷川氏の助手を務めた井上尊晶。出演は、巨匠が情熱を傾けて育て上げた「さいたまゴールド・シアター」と「さいたまネクスト・シアター」だ。3年余りの時を経て、リーディング公演としてついに解禁、この機会を見逃すな！

作：藤田貴大 演出：井上尊晶
10月13日(日)～15日(火)
彩の国さいたま芸術劇場 大ホール

企画展 「蜷川幸雄 クロニクル(仮)」

蜷川氏の貴重な写真や資料を通して、その人生と演劇界に残した功績を振り返る企画展。

10月1日(火)～15日(火)
彩の国さいたま芸術劇場 ガレリア
※入場無料



『まなざし』

『蜷の綿 -Nina's Cotton-』は蜷川幸雄演出バージョンのほか、劇作家自身が演出を手掛けるバージョンが同時期に上演される予定だった。あれから3年を経て、再び“蜷川幸雄”に向き合い、考察する、藤田貴大の作品を上演。

構成・演出：藤田貴大
10月11日(金)～15日(火)
彩の国さいたま芸術劇場 NINAGAWA STUDIO(大稽古場)



藤田貴大 Photo©井上佐由紀

チケット発売日 一般 8.31(土) メンバーズ 8.24(土)

『蜷の綿 -Nina's Cotton-』リーディング公演

10.13(日)～15(火) 彩の国さいたま芸術劇場 大ホール

[作]藤田貴大 [演出]井上尊晶
[出演]さいたまゴールド・シアター、さいたまネクスト・シアター
チケット(税込) 全席指定 2,500円

10.13 14 15
日 月祝 火
13:30 ● ● ●
17:00 ● ● ● ※開場は開演の30分前

チケット発売日 一般 8.31(土) メンバーズ 8.24(土)

『まなざし』

10.11(金)～15(火) 彩の国さいたま芸術劇場 NINAGAWA STUDIO(大稽古場)

[構成・演出]藤田貴大
チケット(税込) 全席自由(整理番号付) 2,000円

10.11 12 13 14 15
金 土 日 月祝 火
14:00 ● ● ● ● ●
17:00 ● ● ● ● ●
19:30 ● ● ● ● ● ※開場は開演の20分前
※仮設客席での上演のため、
椅子の形状が通常と異なります。

『蜷川幸雄シアター in 彩の国さいたま芸術劇場』

蜷川演出作品を大きなスクリーンで鑑賞する『蜷川幸雄シアター』から、彩の国シェイクスピア・シリーズ第15弾『間違いの喜劇』、第23弾『じゃじゃ馬馴らし』、第28弾『ヴェニスの商人』、第29弾『ジュリアス・シーザー』の4作品を上映する。ファンはもちろん、生で蜷川作品を観たことがない若い世代も必見の舞台！

10月13日(日)～15日(火) 彩の国さいたま芸術劇場 映像ホール



『間違いの喜劇』©高梨光司

10月13日(日)10:30/15日(火)10:30
彩の国シェイクスピア・シリーズ第15弾
『間違いの喜劇』(上映時間117分)
演出：蜷川幸雄 作：W.シェイクスピア
出演：小栗 旬、高橋 洋、内田 滋、月川悠貴、
鶴見辰吾、吉田鋼太郎、瑠川哲朗 ほか



『ジュリアス・シーザー』©引地信彦

10月13日(日)13:30
彩の国シェイクスピア・シリーズ第29弾
『ジュリアス・シーザー』(上映時間175分)
演出：蜷川幸雄 作：W.シェイクスピア
出演：阿部 寛、藤原竜也、横田栄司、吉田鋼太郎 ほか



『ヴェニスの商人』©清田征剛

10月14日(月祝)10:00
彩の国シェイクスピア・シリーズ第28弾
『ヴェニスの商人』(上映時間166分)
演出：蜷川幸雄 作：W.シェイクスピア
出演：市川猿之助、中村倫也、横田栄司、
大野拓朗、間宮啓行、石井愷一、高橋克実 ほか



『じゃじゃ馬馴らし』©清田征剛

10月14日(月祝)16:30
彩の国シェイクスピア・シリーズ第23弾
『じゃじゃ馬馴らし』(上映時間147分)
演出：蜷川幸雄 作：W.シェイクスピア
出演：市川猿之助、寛 利夫 ほか

チケット発売日 一般・メンバーズ 8.31(土)

『蜷川幸雄シアター in 彩の国さいたま芸術劇場』

10.13(日)～15(火) 彩の国さいたま芸術劇場 映像ホール [協力]ホリプロ

チケット(税込) [各回]全席自由 1,800円(当日2,000円)
U-25* 1,300円(当日1,500円)
*U-25チケットは公演時、25歳以下の方が対象です。入場時に身分証明書をご提示ください。

10.	13	14	15
日	日	月祝	火
10:00		ヴェニスの商人	
10:30	間違いの喜劇		間違いの喜劇
13:30	ジュリアスシーザー		
16:30		じゃじゃ馬馴らし	

※開場は開演の20分前

新春を飾る舞台

新春狂言

『万作・萬齋の世界』

野村万作 Interview

埼玉会館ではおなじみの公演、野村万作、野村萬齋による狂言『万作・萬齋の世界』が新春に開催される。芸歴85年の狂言師・万作に、公演の見どころ、狂言の奥深さを聞く。

取材・文 ● 高橋彩子 (演劇・舞踊ライター) Photo ● 増森 健



— 今回の『万作・萬齋の世界』では『棒縛』の太郎冠者をなさいます。

若い頃は随分と演りましたが、今回は久しぶりです。棒にずっと縛られているだけでも大変で、身体的にキツイ演目をなぜ選んだかと言えば、『棒縛』はこう演るべきだというオーソドックスなものを見せたいから。最近は何となく演じる演者が増えていますが、そんなことをしなくても面白さは伝わります。狂言はお能と共に歩んできた芸能ですから、ゲラゲラ笑わせるのではなく、笑みを含むとか、自ずから笑いが出るといった状態が望ましいのではないのでしょうか。また、太郎冠者と次郎冠者は酔って舞いますが、舞自体は酔わずにきちんと見せる。リアルなお芝居とは違うところも大切にしたいですね。ただしこれらは演者に言うことであって、お客様はまささらな状態で観に来てくだされば幸いです。— 狂言には様々な太郎冠者が登場しますが、同じ呼び名ということで、なさっていて繋がる場所はありますか？

254ある狂言の中で一番多い主役が太郎冠者。いずれも家来、時に奴隷ではないかと思うほど下層階級の庶民で、ズルい者もいれば賢い者もいて、人間の様々な長所短所を表しています。そうした太郎冠者を演じるには、自分の人間性をきちんと置かなくてはいけないんですね。そういえば、関頑亭さんという彫刻家は私の父(六世野村万蔵)を「真っ直ぐな目線の人」と評されました。父には、左翼で無季俳句を作る(能)面打ちの弟子がいたのですが、その人と、思想的には特に右も左もなく、高浜虚子の弟子で季のある俳句を作る父とは、よく大声で率直に物を言い合っていました。一方、能狂言の代表として総理大臣の前で壇上に上がった時も、低姿勢になら

ず、これまた率直に話していました。これが“真っ直ぐな目線”であり太郎冠者の目線だろうと思います。

— 一方、ご子息の萬齋さんは今回、『小傘』をなさいますね。

博奕打ちが僧侶に化け、博奕の場で歌う歌をお経のように読むという役は、今の萬齋に合っていると思いますし、通常は供物と共に傘を持ち去るのですが、傘を広げて置いて逃げ、町の人々がそれをどけて「やられた！」と気づくようにしたところで、彼の演出家の志向が活きています。

— 元号が令和になりました。狂言の継承について、お考えをうかがえますか？



『棒縛』 Photo◎政川慎治 『小傘』 Photo◎政川慎治

公演回数から考えても、狂言がこんなに盛んな時代は今までにありません。ただそうすると、一つの作品、役にかけるウェイトは軽くなります。慣れの良さもあるけれど悪さもある。父は60歳を過ぎてから「舞台が怖い」と言っていたのですが、私も今、同じ気持ちなのです。舞台が怖い、大事な、失敗したら次がない、というこの思いは、次もありその次もある若手・中堅の一生懸命さとは違うでしょう。歳を取ると体力も落ち、声もしゃがれ、以前は一息で喋った言葉も喋れなくなる。苦勞が多いんですよ(笑)。

— ですが舞台上では誰よりお声にハリが

あり、エネルギーが漲っておられます。

エネルギーをぶつけて演じることは重要ですね。習ってきたことだけをお客様に押し付けるのではダメなんです。若い頃は教えられたことを盲目的に覚えるものですが、私も中年以降は、名人と言われる先輩方の舞台から学んだことや、現代劇の人と付き合った経験などから、自分で発見していきました。私の場合、師である父の影響が一番強いですが、4〜6歳くらいまでは祖父(五世野村万造)に習っていて、その芸は父だけでなく叔父(九世三宅藤九郎)にも継承されていたので、年を取ってからは、叔父からも多くを学んだのです。ですから自分の芸のこの部分は父よりも叔父経由での祖父の芸なのかな、と感ずることがあります。

— 現代劇というのは、初演キャストとして源義経役を演じた『子午線の祀り』などのことでしょうか？

その通りです。『子午線の祀り』には滝沢修や山本安英や宇野重吉といった新劇を代表する人たちが参加していました。彼らにリアリズムの演技で対抗できるわけではありませんが、日本語の明晰さ、ピンと通る声があったから、作者の木下順二さんは私を指名したのでしょう。古典の役者にとって、そうした日本語を舞台で示すことは大切。弟子に狂言を教えるにあたって、言葉は明確に喋るということが一番注意します。「令和」の発音が「れいわ」か「れえわ」かはっきりしないのは、狂言ではありえないこと。『子午線の祀り』では作者から「平家」の狂言での発音を訊かれ、「へいけ」で統一されました。言葉をきちんと発音すること、これが狂言の精神です。時代が変わっても、その言葉が皆さんに理解され、演者が先々を心配せず修業に打ち込めるようにとも願っています。

チケット発売日 一般 9.21(土) メンバーズ 9.14(土)

新春狂言『万作・萬齋の世界』

2020.1.25(土) 15:00開演(14:30開場) 埼玉会館 大ホール

[出演] 野村万作、野村萬齋、石田幸雄、深田博治、高野和憲、月崎晴夫、野村太郎、岡 聡史、中村修一、内藤 連、飯田 豪、石田淡朗

[演目] 『棒縛』、『小傘』

チケット(税込) 一般 S席6,000円 A席4,500円 B席3,000円
U-25*(B席対象) 2,000円 / メンバーズ S席5,400円 A席4,100円 B席2,700円

*U-25チケットは公演時、25歳以下の方が対象です。入場時に身分証明書をご提示ください。

開演前に狂言講座を開催!

2020.1.25(土) 12:30開場 / 13:00開演(約1時間予定) 出演者: 深田博治、高野和憲

※1月25日公演のチケットをお持ちの方はどなたでもご参加いただけます。
※狂言講座終了後、公演準備が整うまで一旦客席よりご退場いただきます。



野村万作

Mansaku Nomura

狂言師。重要無形文化財各個指定保持者(人間国宝)。文化功労者。祖父・故初世野村萬齋及び父・故六世野村万蔵に師事。「万作の会」主宰。狂言の技術の粋が尽くされる秘曲『釣狐』に長年取り組み、その演技で芸術祭大賞を受賞。その他、親世寿夫記念法政大学能楽賞、松尾芸能賞、紀伊國屋演劇賞、日本芸術院賞、紫綬褒章、坪内逍遙大賞、朝日賞、長谷川伸賞、旭日小綬章等、多数の受賞歴を持つ。『月に憑かれたピエロ』『子午線の祀り』『秋江』『法螺待』『敦・山月記・名人伝』など、狂言師として新たな試みにもしばしば取り組み、現在に至る狂言隆盛の礎を築く。今年6月、米寿を記念した著書『狂言を生きる』(朝日出版社)が刊行された。



佐藤 俊介

Interview

佐藤俊介とオランダ・バッハ協会管弦楽団

知識と専門性、 情熱を兼ね備えた凄腕集団 それがオランダ・バッハ協会

1921年に創立された、世界最高峰の古楽演奏団体オランダ・バッハ協会。その音楽監督に、彩の国さいたま芸術劇場と縁のあるヴァイオリニスト佐藤俊介が2018年6月に就任した。そしてこの秋、いよいよ就任後初の日本ツアーを行う。古楽の国オランダの伝統ある楽団を率いて1年経った今、古楽について、そして公演について話をうかがった。

取材・文 ● 池田卓夫 (音楽ジャーナリスト@いけたく本舗) 構成 ● 榎原律子

佐藤 俊介
(ヴァイオリン / オランダ・バッハ協会 音楽監督)
Shunske Sato

モダン、バロック双方の楽器を弾きこなすヴァイオリニストとして世界的に活躍。バロック・ヴァイオリン奏者としては、コンチェルト・ケルンおよびオランダ・バッハ協会のコンサートマスターを務める。2018年6月1日よりオランダ・バッハ協会第6代音楽監督に就任。モダンの分野では、国内主要オーケストラ、ベルリン・ドイツ・オペラ管、バイエルン放送響、フィラデルフィア管、ポルティモア響、ナショナル響、シアトル響などと共演。最新CDは、J.S.バッハのヴァイオリン協奏曲集(ワーナーミュージック)と無伴奏ヴァイオリン・ソナタ&バルティータ全曲集(ACOUSTIC REVIVE)。



Photo © Marco Borggreve

古楽はタイムマシンのように 過去の社会をも表現する

—古楽との出会いは、いつ、どんなきっかけでしたか？

僕は18歳までジュリアード音楽院のプレレッジにいたので、アメリカのスタイルにすっかり染まっていた。当時のアメリカでは古楽器が今ほど広まっていなかったのですが、興味を持ったきっかけは父が所有していたディスクです。クリストファー・ホグウッドが指揮した録音などを聴きながら、「ヨーロッパは何かが違う」とぼんやり考えていました。10代の終わりになって「アメリカにないもの」を知りたくなり、ジェラルド・ブーレ先生らのプライベート・レッスンを受けたり、ピリオド(時代)楽器のコンサートに出かけたりし始めました。面白いほどに環境がどんどん整い、短期間でコンチェルト・ケルンのコンサートマスターに就くまでできたのは本



Photo © Melle Meivogel

オランダ・バッハ協会管弦楽団

The Netherlands Bach Society

1921年創設、古楽演奏の総本山ともいえる存在。オランダ国内で年間60以上の公演を行うほか、欧州、米国、日本での公演や欧州での音楽祭に参加。1983年から2018年まで音楽監督を務めたヨス・ファン・フェルトホーヴェンは斬新なプログラム構成と研究で、バッハ作品とバッハと同時代の作曲家の作品群に光を当てた。2018年6月から後継の音楽監督に就任した佐藤俊介は、2021年の創設100周年に向けて楽団を牽引している。バッハの全1080作品のレコーディングをインターネットで無料公開するプロジェクト「All of Bach」を進行中。

当に運が良かったと思います。

—佐藤さんが感じる古楽の魅力とは？

古楽は、楽器そのものと一体です。ヴァイオリンを例に挙げると、弦の太さだけで3種類あります。チェンバロも調弦方法がいくつも存在します。同じ形の楽器でも全然違う音が出ることが古楽器の魅力ですね。表現方法においても、曲そのものだけでなく、作曲家の人物像や時代、政治・社会状況など多方面に目を配りながら、過去を表現します。ちょっと、タイムマシンの感覚かもしれません。

一方、モダン楽器だからといって何もしないのも問題です。同時代の最新作だけ弾いているのなら別ですが、第2次世界大戦までのクラシック、例えばブラームスやラヴェルにも歴史的情報がぎっしり詰まっております。それを踏まえて演奏しなければなりません。ベートーヴェンのソナタを弾く際、モダン楽器でも弦をガットにするかスチールにするかで全く異なる結果を生みますからね。

バッハと彼の人間関係を 可視化するプログラム

—昨年6月、オランダ・バッハ協会の音楽監督に就任されました。オランダ・バッハ協会の特色を教えてください。

メンバーは知識と専門性、情熱を兼ね備え、ほとんど全員が僕より年上です。彼らの年季や経験に加え、純粋に音楽を人生と考える姿勢が素晴らしい。人間的にも朗らかで、温かい音色がします。僕が「ちょっと変わったことをやってみよう」と、ワークショップや異なるジャンルとの交流などのリスクを冒そうとするときも、音楽的に裏付けのある内容であれば認め、楽しみながら高水準の演奏をすぐに実現してしまう凄腕集団でもあります

—オランダ・バッハ協会音楽監督として、どんなことを目指していますか。

音楽監督に就任して改めて、ヨーロッパのなかでも老舗の古楽演奏団体として、オランダ・バッハ協会の存在感の大きさを実感しています。僕がやるべきことは、曲目、共演者、演奏会のスタイルなど、それぞれのポイントで「今の形のままでいいのか」と問いかけることです。今、世界の政治、経済、社会のあらゆる場面に問題が生じているなか、音楽が果たせるポジティブな役割とは何かを絶えず考えています。具体的には子どもや学生に対するレッスン、コーチングを日常の活動に組み入れるところから始めますが、もっと大きいことを発想し、全く新しいプラットフォームに乗せてみたいとも、夢んでいます。

フォームに乗せてみたいとも、夢んでいます。

—今回の日本公演のプログラムのポイントは何でしょう。

もちろんJ. S. バッハの作品が中心ですが、彼の友人ピゼンデルや、ドレスデンにいたフランス人のフラウトトラヴェルソの名手リュファルダンという、バッハに直接間接の影響を与えた人物の作品を交え、バッハ周辺の人間関係まで可視化するプログラムです。

—佐藤さんは彩の国さいたま芸術劇場で3年にわたるシリーズ「佐藤俊介の現在」を行いました。

彩の国さいたま芸術劇場では、普通の企画ではない演奏会を何度もやらせていただきました。ダンス付きとか、ピリオド楽器でシューマンとか……。劇場スタッフの皆さんの芸術、音楽への向き合い方が自分に近いと感じます。本当にクリエイティブな挑戦を次々と実現していただき、感謝しています。

—そんな当劇場で行うオランダ・バッハ協会の演奏会、楽しみに待っていらっしゃる皆さまへメッセージをお願いします。

とにかく聴きにいらしてください！

チケット販売中

佐藤俊介とオランダ・バッハ協会管弦楽団

10.5(土)14:00 彩の国さいたま芸術劇場 音楽ホール

[出演]佐藤俊介(ヴァイオリン / 音楽監督)
アンネケ・ファンハーフトン / ビーテル・アフルティト(ヴァイオリン)
フェムケ・ハウジンガ(ヴィオラ)
ルシア・スヴァルツ(チェロ)
ヘン・ゴルドソールベル(コントラバス)
マルテン・ロート(フルート)
エマ・ブラック / ヨンチョン・シン(オーボエ)
ベニー・アガッシ(バスーン)
ディエゴ・アレス(チェンバロ)

[曲目] J. S. バッハ: 管弦楽組曲 第1番 ハ長調 BWV 1066

ピゼンデル: ダンスの性格の模倣

J. S. バッハ: ヴァイオリンとオーボエのための協奏曲 短調 BWV 1060R

J. S. バッハ: ヴァイオリン協奏曲 第2番 ホ長調 BWV 1042

リュファルダン: 《5声の協奏曲 短調》より 第2楽章

J. S. バッハ: ブランデンブルク協奏曲 第5番 二長調 BWV 1050

チケット(税込) 一般 正面席 6,000円 バルコニー席 5,000円

U-25*(バルコニー席対象) 3,000円 / メンバーズ 正面席 5,400円

*U-25チケットは公演時、25歳以下の方が対象です。入場時に身分証明書をご提示ください。

学芸員が
案内する

《展覧会の絵》

——音楽を見て、絵画を聴く——

埼玉会館での毎年恒例のお楽しみ、NHK交響楽団公演。
今年、N響と厚い信頼関係を築き、N響の魅力をさらに引き出す指揮者・下野竜也と共に、
ムソルグスキー（ラヴェル編曲）の《展覧会の絵》を演奏する。
ロシアの建築家ハルトマンの絵を、ロシアの作曲家ムソルグスキーが音で描いた
《展覧会の絵》の“見”どころを、学芸員がご紹介！

文●澤渡麻里（茨城県近代美術館 主任学芸員）

ムソルグスキーが企画した
“もう一つの追悼展”

モデスト・ムソルグスキー（1839～1881）の《展覧会の絵》の誕生の契機となったのは、彼の友人で建築家・デザイナーであったヴィクトール・ハルトマン（1834～1873）の早すぎる死と、その翌年に開催された遺作展である。ハルトマンの母校の美術アカデミーで開催されたこの展覧会には、建築の設計図やデザイン画、そしてかつて欧州旅行で目にした風景や風俗を描いた水彩画など400点以上が展示された。ムソルグスキーはこの遺作展に触発されて「ヴィクトール・ハルトマンの思い出」という副題のピアノ組曲《展覧会の絵》を作曲、そしてその半世紀後の1922年には“管弦楽の魔術師”ことモーリス・ラヴェル（1875～1937）がこれを管弦楽版に編曲して大成功を収めることになる。

通常、特定の芸術家の回顧展や遺作展は、初期から晩年の作品まで、その人の「創造の軌跡」を概観するもので、ハルトマンの遺作展も、その仕事の「全体像」を俯瞰できるように作品が集められたに違いない。《展覧会の絵》は、ムソルグスキーがこの展覧会で目にした作品の印象を音楽で描写しようとしたもので、〈プロムナード〉と呼ばれる序曲で始まり、標題を持つ10曲の小品の合間に、冒頭の〈プロムナード〉が少しずつ形を変えて間奏曲として現れるという構成になっている。なお、作曲家のインスピレーションの源となったハルトマンの個々の作品は、10曲のうち5曲については特定されているが、遺作展に出品された作品が散逸してしまっていることもあり、残り5曲に関しては不明か、はっきり断定するのは難しい。いずれにせよ、10曲の小品の直接的な題材となったのは、数百点からなる遺作展全体からすればごく一部の作品である。《展覧会の絵》は、回顧展のように網羅的、編年的ではなく、ハルトマンの芸術のエッセンスを抽出し、10

曲の標題音楽＝10点の「絵画」によって再構成した“もう一つの追悼展”とみなすこともできるだろう。

ムソルグスキーの“自画像”と
ハルトマンの10の絵

さて、フランス語で「散歩」を意味する〈プロムナード〉は、亡くなった友人を想いながら展覧会場をそぞろ歩くムソルグスキーのいわば「自画像」である。そして、冒頭の〈プロムナード〉の楽譜には「ロシアの調べのように」とあり、作曲家のロシア人としてのアイデンティティも表明される。各曲のタイトルにはロシア語以外に、イタリア語、フランス語、ラテン語など数か国語が用いられており、これらはハルトマンの外遊経験を映し出すものである。

冒頭の〈プロムナード〉から、地底の宝を守る妖精グノームを表した第1曲〈こびと〉へ、そして〈プロムナード〉に戻り、イ

キエフの市街門の図案 1869年／鉛筆・水彩／42.9×60.8cm
[第10曲]

タリアの城を描く第2曲の〈古城〉に移る。それぞれ全く異なる絵画世界に入っては、現実（〈プロムナード〉）に戻り、そこからまた違う絵画世界に足を踏み入れていくのを繰り返す構造だが、全体的に個々の絵画（楽曲）の並びはかなりランダムにも感じられ、その分〈プロムナード〉が繋ぎとして重要な役割を担う。短い〈プロムナード〉の後の第3曲〈テュイルリー（遊んだ後の口げんか）〉では、パリのテュイルリー公園に子どもたちが争う可愛らしい声が響く。第4曲〈ビドロ〉はポーランドの牛にひかれた荷車を表し、地を引きずるような重々しい音楽が展開した後、悲し気な響きの〈プロムナード〉が挿入される。第5曲〈殻をつけた雛鳥の踊り〉については、バレエ「トリルビ」のためのハルトマンの衣裳デザイン画が現存している。ハルトマンによる、巨大な卵の殻から鳥の頭や手足が突き出たイメージはユーモラスだが、音楽の方は、鳥の鳴き声や羽ばたき、そして踊る子どもたちの動きを精緻に表しており、極めて描写的である。第6曲〈サミュエル・

ゴールデンベルクとシュムイレ〉は、2枚の作品、毛皮の帽子をかぶったユダヤ人と貧しいユダヤの老人の肖像を着想源とし、裕福で尊大なユダヤ人ゴールデンベルクと貧しく卑屈なユダヤ人シュムイレの対話に昇華している。フランスの小都市の市場の喧騒を表した第7曲〈リモージュ 市場（重大なニュース）〉を経て、第8曲〈カタコンブ（ローマ時代の墓）〉は、パリのカタコンブ（地下墓所）を訪れたハルトマンと友人、カンテラを持つ案内人、そして暗がりにな気味に積み重なる頭蓋骨を描いた水彩画を元に音楽化され、プロムナードの変形である〈死せる言葉による死者への話しかけ〉が続く。第9曲〈鶏の足の上の小屋（バーバ・ヤガー）〉に登場するバーバ・ヤガーはスラヴ民話の魔女で、土着性を帯びたこの曲は時計のデザイン画に端を発している。ハルトマンはかねて西欧とは異なるロシア独自のスタイルを築こうとしていたが、このロシア風の、怪奇的で装飾性豊かな時計の素描は中世スラヴ的な世界観を導き、音楽はここに至って大きく「ロシア」に回帰

する。第10曲〈キエフの大門〉は、ハルトマンがキエフの市街門のデザイン・コンペに応募した作品の水彩スケッチに由来する。ロシア様式を追究する建築家が描き出したのは、スラヴ風の兜のような丸屋根に、塔と教会を備えた、象徴的に「ロシア」を謳い上げた建造物である。〈キエフの大門〉は古都の壮麗な門を現前させ、ロシア正教のコラールや作曲家の自画像たる〈プロムナード〉を内に取り込みながら、豪華華麗に《展覧会の絵》を締めくくる。

*

絢爛たる《展覧会の絵》を聴きながら、ムソルグスキーの靈感源となったハルトマンのスケッチや水彩画を眺めると、小ぶりなサイズも相まってだいぶ慎ましやかに映る。ハルトマンの淡彩のイメージが、ムソルグスキーの想像力とラヴェルの巧緻な編曲によって、いかに輝かしく色彩豊かな「絵」に変容させられたか、是非、11月に埼玉会館で行われるNHK交響楽団公演で確かめていただきたい。

毛皮の帽子をかぶった裕福なユダヤ人
1868年／鉛筆・セピアインク・ラッカー
25.6×19.9cm
[第6曲]貧しいユダヤ人
1868年／鉛筆・水彩／14×10.5cm

チケット販売中

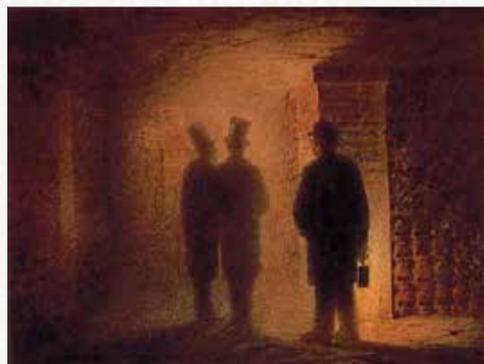
NHK交響楽団

下野竜也（指揮） 小山実稚恵（ピアノ）

11.2（土）16:00 埼玉会館 大ホール

[曲目]ヴェルディ:歌劇《運命の力》序曲
ラフマニノフ:ピアノ協奏曲 第2番 ハ短調 作品18
ムソルグスキー(ラヴェル編曲):組曲《展覧会の絵》チケット(税込) 一般 S席6,500円 A席5,500円 B席4,500円
U-25* (B席対象) 2,000円

メンバーズ S席6,000円 A席5,100円 B席4,200円

※15.25～15.40に指揮者・下野竜也氏によるプレコンサートトークあり。
*U-25チケットは公演時、25歳以下の方が対象です。入場時に身分証明書を提示ください。殻を着たカナリアたち 1870年／水彩／17.6×25.3cm
[第5曲]パリのカタコンブ 1864～65年頃／水彩／12.9×17cm
[第8曲]鶏の足の上のバーバ・ヤガーの小屋
1870年／鉛筆／23.5×31.8cm
[第9曲]

見逃した舞台を観たい、
もっと知りたい、
深く味わいたい

ご存知ですか？ 舞台芸術資料室

彩の国さいたま芸術劇場には、さまざまな舞台芸術関連の
情報・資料を収集保存した舞台芸術資料室があります。
現在、資料は約3万点。
豊富な資料が、どなたでも無料で、自由に閲覧いただけます。
公演鑑賞前、鑑賞後にふらりと立ち寄れば、
思わぬ出会いがあるかも？ どうぞご利用ください。

文●川添史子



POINT 1 もう一度観たい、 あの公演

1994年開館当初よりアーカイブしている自主公演の映像は、
資料室の宝。彩の国シェイクスピア・シリーズをはじめ、さいた
まゴールド&ネクスト・シアター、コンドルズ、海外招聘ダンス作品
(ピナ・バウシュ、バットシェバ舞踊団ほか)、音楽公演(ピアノ・エ
トワール・シリーズほか)など、現在、300本近くが視聴できます。
自主公演の映像は公演年度の2年後より順次公開。公開してい
ない映像もあるので、事前に財団ホームページ検索システムで
ご確認ください。



菅田将暉主演、彩の国さいたま芸術劇場開館20周年記念
NINAGAWA×SHAKESPEARE LEGEND I
『ロミオとジュリエット』(2014年)の映像も視聴可能。
Photo◎清田征剛

POINT 2

“あの人”の本棚を 見るような楽しさ

諸井誠寄贈資料

諸井誠元芸術監督からの寄贈資料約8,000点(クラシックCD中心)。
同じ曲を演奏者や指揮者で比較したり、スコアと照らし合わせたり、いろ
んな角度で楽しめます。

松岡和子文庫

彩の国シェイクスピア・シリーズの全翻訳をしている松岡和子氏から譲り受
けた寄贈資料1,345点。シェイクスピア関連書のみならず、さまざまなジャ
ンルの本が見つかるので、松岡氏の広い知識を感じることができます。

金森文庫

舞台美術家・金森馨氏からの寄贈資料315点。プロの舞台スタッフに
とって貴重な国内外の書籍が揃っています。

POINT 3

これから観る 舞台の知識を 深める

2020年2月、彩の国シェイクスピア・
シリーズ『ヘンリー八世』を観る前に。
同シリーズ『シンペリン』『ジュリアス・シーザー』
など、阿部寛出演作品をチェック!

彩の国シェイクスピア・シリーズ第25弾
『シンペリン』(2012年) Photo◎渡部孝弘



2020年3月、バットシェバ舞踊団
の来日に合わせて事前チェック。

これまで彩の国さいたま芸術劇場で上演
された、オハッド・ナハリンが率いたバット
シェバ舞踊団の作品もアーカイブされて
います。

バットシェバ舞踊団/オハッド・ナハリン
『LAST WORK-ラスト・ワーク』(2017年) Photo◎Arnold Groeschel



10月佐藤俊介とオランダ・パッサ協会管弦楽団、鑑賞前に。

ヴァイオリニスト佐藤俊介が2015年か
ら3年間登場した、彩の国さいたま芸
術劇場オリジナル企画「佐藤俊介の
現在」。Vol.3は、ピアニストの小菅優、
ヒストリカル・クラリネットのロレンツォ・
コッポラと共に。

佐藤俊介の現在 Vol.3
20世紀初頭、花ひらく三重奏(2017年)
Photo◎加藤英弘



POINT 4

プロも使う資料室

彩の国さいたま芸術劇場で働く舞台スタッフや、さいたまゴ
ールド・シアター、ネクスト・シアターのメンバーも、公演の勉強
にも使用しています。舞台の稽古中に蜷川幸雄前芸術監督から
「あの資料を調べろ!」という指示が飛び、スタッフが走りこん
できて調べることもあったとか。



利用案内

- ◎開室時間 9:00 ~ 18:00
- ◎休室日は毎月第1・第3・第5月曜日(但し祝日の場合は開室し、翌日休室)、年末・年始、臨時休館日、特別整理期間。
- ◎視聴ブースでは、CD、DVD / Blu-rayの視聴ができます。視聴用AVシステムあり。(3ブース / 1日3時間まで)
- ◎館外貸出・コピーサービスは行っていません。

当資料室の資料については、公益財団法人埼玉県芸術文化振興財団ホームページにて検索することができます。https://www.saf.or.jp/arthall/facilities/sa_infocoroom/search/
埼玉県立図書館ホームページにも情報が掲載されています。https://www.lib.pref.saitama.jp/stplib_doc/link/ruien/ID_060.html

どんな資料があるの？

図書

舞台芸術分野における専門書、評論、研究、
論文、解説書などを中心に国内外の図書を
収集。

映像

演劇、オペラ、バレエ、クラシック、日本古典
舞踊などのDVD、Blu-ray(約3,600枚)。
また、イギリスBBC制作のシェイクスピア全
集の映像も全作品揃っています。

CD

クラシックを中心に、民俗音楽、ジャズ、ロッ
ク、落語など。加えてスコアも438冊所蔵
(ベートーヴェン全集あり)。

雑誌

演劇、音楽、舞踊、映像の分野における雑誌
(音楽の友、レコード芸術、テアトロ、悲劇喜
劇、ダンスマガジンなど)。

自主公演チラシ・パンフレット閲覧など、調べたいことをお手伝いいたします。
舞台芸術資料室スタッフまでお気軽にお問合わせください。

DANCE

コンドルズ 埼玉公演2019新作

『Like a Virgin』

5.11(土)・12(日) 彩の国さいたま芸術劇場 大ホール

新しい時代「令和」の始まり——元号が変わる月に上演が重なったコンドルズの新作は、「さあやるぞ！」という力がわいて出てくるようなタイトル。13年目を迎えても、新鮮な風を起こし続けるような、挑戦的な舞台となった。大ホールの劇場機構をフルに活かした構成は、場面が変化する度に驚きが用意されており、特に舞台中央の巨大奈落を下げ、さまざまな情景を想起させた場面では、目まぐるしくさまざまな動きや仕掛けが展開。そして、出演は2013年以来という小林顕作がサプライズ登場した瞬間は、客席から歓声が！ アイデア満載、まばたきする間もないような、革新的な作品を見せてもらった。



Photo © HARU

PLAY

『CITY』

5.18(土)～26(日) 彩の国さいたま芸術劇場 大ホール

現代の都市を舞台に藤田貴大が描き出したのは、「ヒーロー」をモチーフとした物語。蛭川幸雄演出『海辺のカフカ』初演で少年カフカを演じた柳楽優弥が久々に彩の国さいたま芸術劇場に登場、正義のためには暴力もいとわぬ主人公をクールに演じた。対峙する敵を演じた井之脇海、主人公の幼馴染役の宮沢水魚、妹役の青柳いつみ、猟奇的な殺人犯役の内田健司と若手実力俳優が揃い、それぞれの放つ魅力が混じり合うよう。縦横無尽に動かされる何枚ものパネル操作は圧巻で、アンリアレイジによる“光と影”をイメージした発光する衣裳にも目を見張る。蛭川氏へのオマージュが滲む選曲も印象に残った。



Photo © 井上佐由紀

MUSIC

埼玉会館ランチタイム・コンサート第39回

イリーナ・メジャーエワ(ピアノ)

6.14(金) 埼玉会館 大ホール

日本を拠点に活動する人気ピアニスト、イリーナ・メジャーエワによる「ランチタイム・コンサート」。流暢な日本語でのトークをささみながら名曲の数々を聴かせた。ショパンは、作曲家の魂を語るような音の揺らぎで詩情豊かに演奏。なかでも「英雄ポロネーズ」は堂々たる響きで魅せた。グリーグ《抒情小曲集》は北欧のさわやかな響きに満ち、印象派絵画を見るようなドビュッシー《沈める寺》のあと、ラフマニノフ《鐘》で一瞬にしてロシアの景色に。低音を際立たせる重厚な響きに、メジャーエワが受け継ぐロシア・ピアノの伝統を聴いた。アンコールはメンデルスゾーン《春の歌》。風がそよぐような、すがすがしい演奏で締めくくった。



Photo © 加藤英弘

MUSIC

ピアノ・エトワール・シリーズ アンコール! Vol.8

萩原麻未 ピアノ・リサイタル

6.16(日) 彩の国さいたま芸術劇場 音楽ホール

お客様からのリクエストにお応えし、「ピアノ・エトワール・シリーズ」5年ぶりの再登場となった萩原麻未。舞曲をテーマにしたこだわりのプログラムを披露した。前半はショパンのワルツ。「華麗なる大円舞曲」「小犬」を含む9曲を演奏し、舞曲というより夢想の物語を紡ぐような独特の世界を描き出した。後半は《ラ・ヴァルス》の熱狂の舞で開始。モンボウ《歌と踊り》で親密な響きを醸し出し、《アディオス・ノニーノ》はペダルを踏む足のリズムと共にタンゴの情熱が高まる。最後はヒナステラ《アルゼンチン舞曲》。特に第3曲の強烈な打鍵による壮麗な音が圧倒的。前半と後半、全く異なる音を楽しませてくれた充実のリサイタルだった。



Photo © 加藤英弘

DANCE

ディミトリス・パバイオアヌー

『THE GREAT TAMER』

6.28(金)～30(日) 彩の国さいたま芸術劇場 大ホール

裸で仰向けに横たわるパフォーマーに白い布がかけられ、風がそれを吹き飛ばし、やがて宇宙飛行士が登場し……オープニングの場面からぐいぐいと引き込まれたミステリアスな作品は、ダンス界のみならずアートシーンをも賑わすギリシャのアーティスト、ディミトリス・パバイオアヌーの初来日公演。聖書や神話的な世界が、絵画のように立ち現れては消える幻想的な時間は、あっといふ間の夢旅行。時にグロテスク、時にユーモラス、観客の想像力を刺激しながら目の前を流れていく風景は哲学的でもあり、人生、あるいは人類についての物語のようにも受け取れる。スケールの大きな、美しい作品を目撃した。



Photo © Julian Mommert

MUSIC

大塚直哉レクチャー・コンサート

オルガンとチェンバロで聴き比べるバッハの“平均律”

Vol.2 「フーガ」の苦しみと喜び

7.7(日) 彩の国さいたま芸術劇場 音楽ホール

どの鍵盤楽器に向けて書かれたのかわからないバッハの名曲《平均律クラヴィーア曲集》をポジティブ・オルガンとチェンバロで聴き比べる贅沢なレクチャー・コンサート第2弾のテーマは「フーガ」。音階を埋め込むというバッハの好んだ書法を紹介しつつ、フーガがどのように構成されているか、第1巻第11番～第17番を2つの楽器で演奏して解き明かした。さらにヴァイオリン奏者の若松夏美がゲストとして登場。バロック・ヴァイオリンについて、ヴァイオリン奏者と鍵盤楽器奏者にとってのフーガの“苦しみ”と“喜び”について、興味深いトークののち、弦4本の上で繰り広げられる無伴奏ヴァイオリンによるフーガの妙技を堪能した。



Photo © 横田敦史

大ホール 小ホール 音楽ホール 映像ホール 情報プラザ 彩の国さいたま芸術劇場 埼玉会館 埼玉会館

Calendar grid for August and September 2019, categorized by PLAY, MUSIC, and CINEMA. Includes event details such as 'テアトロ・ムジーク・インプロヴィーズ', 'クロワッサンで朝食を', and '洗骨'.

大ホール 小ホール 音楽ホール 彩の国さいたま芸術劇場 埼玉会館 埼玉会館

*U-25チケットは公演時、25歳以下の方が対象です。入場時に身分証明書を提示ください。

CINEMA section featuring movie listings for 'クロワッサンで朝食を', '洗骨', '万引き家族', and '顔たち、とこところ'.

PLAY section featuring event listings for '林家たい平とおすすめ若手特選会', 'Nina's Cotton-リーディング公演', and 'アンサンブル・ウィーン=ベルリン'.

MUSIC section featuring event listings for 'テアトロ・ムジーク・インプロヴィーズ', '菅原潤とN響メンバーによるアンサンブル', and 'アンサンブル・ウィーン=ベルリン'.

MUSIC

販売中

ピアノ・エトワール・シリーズVol.37
ルーカス&アルトワール・ユッセン
ピアノデュオ・リサイタル
11.17(日) 15:00 **音楽ホール**
 [曲目]
 モーツァルト：2台のピアノのためのソナタ 二長調 KV 448 (375a)
 シューベルト：幻想曲 ヘ短調 D 940 [4手]
 ブーランク：4手のためのソナタ (1918年、1939年改訂)
 ファジル・サイ：夜 [4手]
 ラヴェル：マ・メール・ロワ (4手のための組曲)
 ラヴェル：ラ・ヴァルス [2台ピアノ]
 チケット(税込)
 一般 正面席 3,500円 メンバーズ 正面席 3,200円
 バルコニー席 2,500円 / U-25* (バルコニー席対象) 1,000円

販売中

大塚直哉レクチャー・コンサート
オルガンとチェンバロで聴き比べるバッハの“平均律”
Vol.3 “平均律 wohltemperiert”の謎
 2020.2.2(日) 14:00 **音楽ホール**
 [出演] 大塚直哉 (ポジティブ・オルガン、チェンバロ、お話)
 [曲目] J.S. バッハ：《平均律クラヴィア曲集第1巻》より第18番から第24番
 チケット(税込) 全席指定 2,000円

発売日 一般 8.25(日) メンバーズ 8.24(土)

埼玉会館ランチタイム・コンサート第41回
きりく・ハンドベルアンサンブル
12.6(金) 12:10(終了予定13:00)
埼玉会館 大ホール
 [出演] きりく・ハンドベルアンサンブル
 [曲目] シューベルト：アヴェ・マリア
 アダン：オー・ホーリーナイト ほか
 チケット(税込) 全席指定 1,000円

発売日 一般 10.5(土) メンバーズ 9.28(土)

ピアノ・エトワール・シリーズVol.38
ペアトリー・チェ・ラナ ピアノ・リサイタル
 2020.3.8(日) 15:00 **音楽ホール**
 [曲目] J.S. バッハ：イタリア協奏曲 BWV 971
 シューマン：ピアノ・ソナタ第3番 ヘ短調 作品14
 アルベニス：組曲《イベリア》第3集
 ストラヴィンスキー：「ペトルーシュカ」からの3楽章
 チケット(税込)
 一般 正面席 3,500円 メンバーズ 正面席 3,200円
 バルコニー席 2,500円 / U-25* (バルコニー席対象) 1,000円
 ※78号において公演日の記載に誤りがございました。お詫びして訂正いたします。

発売日 一般 10.5(土) メンバーズ 9.28(土)

サー・アンドラーシュ・シフ ピアノ・リサイタル
 2020.3.14(土) 15:00 **音楽ホール**
 [曲目] シューマン：精霊の主題による変奏曲 Wo024
 ブラームス：3つの間奏曲 作品117
 モーツァルト：ロンドイ短調 KV 511
 ブラームス：6つのピアノ小品 作品118
 J.S. バッハ：《平均律クラヴィア曲集第1巻》より第24番 口短調 BWV 869
 ブラームス：4つのピアノ小品 作品119
 ベートーヴェン：ピアノ・ソナタ第26番 変ホ長調 作品81a「告别」
 チケット(税込)
 一般 正面席 11,000円 メンバーズ 正面席 10,000円
 バルコニー席 9,000円 / U-25* (バルコニー席対象) 4,000円

チケット購入方法

インターネット

SAF オンラインチケット
 埼玉芸術文化振興財団
オンラインチケット
 埼玉会館文化振興財団
 埼玉県庁
 国道17号

SAF オンラインチケット
 で、発売初日 10:00 から
 公演前日 23:59 まで
 受付いたします。

[PC・携帯共通]
<https://www.ticket.ne.jp/saf/>

メンバーズ 登録のご住所へ無料配送
 一般 【クレジットカード決済】 ▶ コンビニ発券
 または【コンビニ支払い】

*チケット代の他に、店頭発券手数料(チケット1枚につき120円)が必要です。

電話予約

チケットセンター 0570-064-939
 10:00～19:00 (彩の国さいたま芸術劇場休館日を除く)
 ※一部の携帯電話、PHS、IP電話からは受付できません。

メンバーズ 登録のご住所へ無料配送
 一般 【コンビニ支払い】 ▶ コンビニ発券

*チケット代の他に、店頭発券手数料(チケット1枚につき120円)が必要です。
 *コンビニ支払い後にチケット配送も承りますが、チケット代のほかに配送料(配達1件につき400円)が必要です。

窓口販売

彩の国さいたま芸術劇場・埼玉会館窓口(10:00～19:00)で直接購入いただけます。電話予約したチケットの引取もできます(メンバーズは登録のご住所への配送となります)。*休館日をお確かめの上、ご来場ください。

メンバーズ 【口座引落】
 一般 【現金】または【クレジットカード決済】

その場でチケットをお渡します。
 ※手数料はかかりません。

彩の国さいたま芸術劇場

〒338-8506 埼玉県さいたま市中央区上峰 3-15-1
 電話:048-858-5500(代) ファックス:048-858-5515

●電車でのアクセス
 JR埼京線与野本町駅(西口)下車 徒歩7分

●バスでのアクセス
 JR京浜東北線北浦和駅から西武バス大久保行き「彩の国さいたま芸術劇場入口」下車 徒歩2分

埼玉会館

〒330-8518 埼玉県さいたま市浦和区高砂 3-1-4
 電話:048-829-2471(代) ファックス:048-829-2477

●電車でのアクセス
 JR宇都宮線・高崎線・京浜東北線・湘南新宿ライン浦和駅(西口)下車 徒歩6分

*駐車台数に限りがありますので、ご来場の際はなるべく公共交通機関をご利用ください。

チケット不正転売防止について

- 当財団主催公演チケットは、財団の同意なく有償で譲渡することを禁止いたします。
- 当財団が直接販売する主催公演のチケットは、購入者の氏名及び連絡先を確認した上で販売いたしております。



Photo ©宮川舞子

マーク・モリス・ダンス・グループによる
パーキンソン病患者のための
ダンス・プログラム

病気とともに生きる人たちにもクリエイティブな表現を楽しんで欲しい。アートによって輝きを感じて欲しい。そんな劇場の想いが結実した新たな一歩が始まりました。米国のコンテンポラリー・ダンスを牽引するマーク・モリス・ダンス・グループが開発した、パーキンソン病患者のためのダンス・プログラム〈Dance for PD®〉。ネットワークは英国のイングリッシュ・ナショナル・バレエをはじめ、25カ国250以上の地域に広がっています。ディレクターであるデイヴィッド・レベンサール氏が来日し、5月31日～6月2日、日本では初となる公式のシンポジウムとワークショップを実施しました。キーワードは“イメージーション”。想像力に導かれることで、動くことに自信を感じられるというもの。6月9日には、レベンサール氏とスターダンサーズ・バレエ団の協力で、患者さんのための体験クラスが実現しました。「病気の診断がくだった時から、“患者”になってしまいました。パーキンソンの患者でもきれいなものが好き、音楽が鳴ったら踊りたい、人前で表現したい。今日は、自分が自分に戻った気がします」という、病気のために踊りを止めざるをえなかったある患者さんの言葉が深く印象に残り、表現する喜びが人に与えてくれる力を再確認しました。



シェイクスピア企画委員会

6月21日、彩の国さいたま芸術劇場シェイクスピア企画委員会が開催されました。この会は河合祥一郎委員長を筆頭に翻訳家、プロデューサーらで構成され、今後の「彩の国シェイクスピア・シリーズ」の方針を検討していく会議。約2年半ぶりの開催となった今回は、吉田銅太郎シリーズ芸術監督が故・蛭川幸雄氏よりバトンを引き継いで上演した2作品の振り返りから始まり、第33弾「アテネのタイモン」では、吉田銅太郎と藤原竜也が出演して難解な戯曲を分かりやすく表現し、第34弾「ヘンリー五世」は、第27弾「ヘンリー四世」(2013年)でのちのヘンリー五世であるハル王子を演じた松坂桃李が引き続きヘンリー五世を演じ、同シリーズならではの企画となりました。そして、議題はシリーズ残り3作品へ。すでに発表されている第35弾「ヘンリー八世」では、阿部寛、吉田銅太郎に並び、きらびやかな宮廷を表現するのにふさわしいキャスト・スタッフが決まり、魅力あふれる舞台を確信する面々。以降2作の吉田の構想が発表されるとその演出プランに一同は驚きの声を挙げて胸を膨らませる場面も。最後まで、シェイクスピア作品の新たな魅力をお届けします。どうぞご期待ください!



『めにもえない みみにしたい』関連企画
「地図のワークショップ」

7月7日、『めにもえない みみにしたい』の作・演出を手がける藤田貴大による「地図のワークショップ」が彩の国さいたま芸術劇場で開催されました。埼玉県内在住の小学の小学生が対象となり、19名(小学1年生～6年生)が参加。まずは名前と好きな食べ物・嫌いな食べ物を言い合うゲームからスタート。ある人の好きな食べ物が、ある人の嫌いな食べ物だったり……と、短時間で仲間を知っていく参加者たち。次の課題は、画用紙に自由に絵を描いてオリジナルのお家作り。追加で外階段、庭や忍者が忍んでいる窓も作って超大作に。それを自分の家として床に置き、劇場に見立てた箱へ家からの道順をマスキングテープを使って道にし、近くの公園やコンビニ、川も作って、最後に家の中に小さなライトを入れあかりを灯すと街が完成! ここで、藤田が「朝、一番最初に誰と、何を喋ったかを教えて」と参加者それぞれに場面を再現してもらうことに。みな、恥ずかしがったりしながらも「お父さんに『おはよう』」、「ママに『起きて!』」や「お母さんに『朝ごはんのパンは厚切り!』」と情景を紡いでいく。朝の出来事を全てつないでいくと、物語の1シーンのようになり、日常が演劇につながっていくのを体感したワークショップとなりました。

サポーター会員

(公財)埼玉県芸術文化振興財団は、演劇、ダンス、音楽を中心に、この劇場でしか見られない最高の作品を提供できるよう、作品づくりに努めています。こうした財団の活動にご理解、ご支援をいただいているのがサポーター会員の皆様方です。(2019.7.15現在 / 一部未掲載)

㈱与野フードセンター / ㈱亀屋 / ㈱松本商会 / ㈱香山壽夫建築研究所 / 埼玉新聞社 / 埼玉りそな銀行 / ㈱パシフィックアートセンター
 ㈱アサヒコミュニケーションズ / FM NACK5 / ㈱タムロン / ㈱十万石ふくさや / 森平舞台機構㈱ / 東芝ライテック㈱ / 埼玉トヨタ自動車㈱
 武蔵野銀行 / ロイヤルパインズホテル浦和 / アルピーノ村 / 国際照明㈱ / 埼玉スバル / ㈱佐伯紙工所 / ㈱太陽商工 / ㈱しまむら / 不動産発㈱
 ビストロ やま / 埼玉県信用金庫 / ㈱栗原運輸 / 彩の国 S P グループ / (有)プラネット / ㈱デサン / セントラル自動車技研㈱ / 丸美屋食品工業㈱
 ポラスグループ / ひがし歯科 / 埼玉トヨペット㈱ / 公認会計士 宮原敏夫事務所 / ㈱埼玉交通 / サイデン化学㈱ / アイル・コーポレーション㈱
 旭ビル管理㈱ / ヤマハサウンドシステム㈱ / ㈱エヌテックサービス / ㈱クリーン工房 / ㈱つばめタクシー / ㈱サンワックス / ㈱総合舞台
 (一財)さいたま住宅検査センター / ㈱国大グループホールディングス / オーガスアリーナ㈱ / イープラス / (医) 榎会 林整形外科 / 埼玉県整形外科医会
 (医) 山粋会 山崎整形外科 / サンケイリビング新聞社 / ㈱三和広告社 / ショッパー / ㈱松尾楽器商会 / 日本大学芸術学部 / ㈱ホンダカーズ埼玉
 (有)杉田電機 / 丸茂電機㈱ / 太平ビルサービス㈱さいたま支店 / ㈱片岡食品 / ㈱協栄 / ㈱ヨコハマタイヤジャパン / NTT東日本 埼玉事業部
 ㈱平和自動車 / 光陽オリエントジャパン㈱ / さくら Music Office / クワバラ・パンぶキン / 東和アークス㈱ / テレビ埼玉 / 日本ビストンリング㈱
 金井大道具㈱ / 国立大学法人 埼玉大学 / ㈱七越製菓 / ビーンズ与野本町 / ㈱コマーム / ㈱原一探偵事務所 / 川口信用金庫 / 青木信用金庫
 ㈱和幸楽器 / 大栄不動産㈱ / 相川宗一 / ㈱ハイデイ日高 / 浦和実業学園中学・高等学校 / 三井隆司 / 大和証券㈱ / AGS㈱ / ウォータースタンド㈱
 ㈱ワイイーシーソリューションズ / 白神久吉 / 医療法人青木会 / むさし証券 / ㈱セレモニー / 三菱UFJモルガン・スタンレー証券㈱ / ㈱積田電業社
 ボートピア岡部・栗橋 / 中央税務会計事務所 / トヨタカローラ埼玉㈱ / 放送大学埼玉学習センター / GARO DAYHAPPY / ㈱有村紙工
 (医) たかだクリニック / SMBC日興証券㈱ / ㈱アステック / ㈱ジェイコムさいたま / ㈱ヤナセ / ㈱博愛社 / トヨタカローラ新埼玉㈱ / 浦和興産㈱
 ㈱村松フルート製作所 / 東武商事㈱

お問合わせ (公財)埼玉県芸術文化振興財団 サポーター会員担当 TEL.048-858-5507

林家彦いちの 「一歩外人」

第9回



はやしや・ひこいち

1989年、林家木久蔵（現・木久扇）師匠へ入門。2000年に若手落語家の登竜門と呼ばれる「NHK新人演芸大賞落語部門」で大賞を受賞。2002年に真打昇進、全国各地で独演会を展開中。アウトドア派として国内外の山や川を制覇中。

自由を取り戻す 生きた言葉

文と写真 ● 林家彦いち

日々、情報と人に埋もれて仕事をしていると、こんな僕でも「こうでなきゃいけないのでは」という気持ちになる。旅先での言葉はそこから解き放ってくれる。中でも“人対人”ではない時に、「僕らは生き物のひとつなんだ」と自由な気持ちになる。よく溪流釣りに出かける。そこでの話題は魚はもとより熊の話。

以前、カナダのユーコン川をキャンプしながらカヌーで下った。僕が熊におびえていると、リバーガイドが対策を教えた。「ブラックベアー イズ ユー ファイト！」。えっ！熊よけや逃げることではないらしい。彼は続けた「アンドグリズリー※ イズ ニホンゴだと……アキラメル！」

絵空事でない、土地の生きる言葉だ。

北海道富良野の溪流を案内してくれた、代々森で暮らす初老の釣り名人は、「心配することはない。熊が出るとすぐ分かる、私の背筋がぞくぞくする」。溪流釣りは離れて釣るので僕にはわからない。彼は「ほとんどの熊は人を見ると逃げる。しかし小熊を守ろうと向かってくる熊もいる。そのときははっきり分かる、私の生え際がひりひりする」と続けた。ますますわからない。ひょっとしたら熊にかじられているということなのか。

先日（東北の）白神山地へ行った。そこで、代々マタギで、現在は「熊の湯旅館」のご主人である吉川隆さんと話す機会



6回熊と格闘したという「熊の湯旅館」のご主人・吉川隆さん

を得た。彼は6回、熊と格闘しているという。眼光鋭く、少ない言葉で多くを語る吉川さんは、噺家の名人のようでもある。最初の闘いでは、熊が上から乗って足と手を押さえられた。とっさに先代から聞いたことを思い出し、熊の口の中に手を入れた。それも肘くらいまで。すると熊は逃げたという。次なる格闘では、突進してくる熊を避けたところに大木があり、それにぶつかり跳ね返ってしまった。そこに突進してくる熊。タイミングというのは恐ろしい。熊の背中に乗ってしまった。上から熊の首を締め、小熊だったのでそのまま逃したという話。もお劇画のよう、いや落語のよう。

やはり一歩外へ出てみると生きた言葉がそこにある。あれもこれもあるのがいい。

※ハイログマ。ヒグマの一種



演劇担当 @Play_SAF
舞踊担当 @Dance_SAF
音楽担当 @Music_SAF



彩の国さいたま芸術劇場 @saitamaartstheater
埼玉会館 @saitamakaikan



Instagram 埼玉会館 @saitamakaikan

www.saf.or.jp

埼玉アーツシアター通信 第82号(8月-9月)

2019年8月1日発行(隔月1日発行)

発行人: 竹内文則

発行: 公益財団法人埼玉県芸術文化振興財団

〒338-8506 さいたま市中央区上峰3-15-1 TEL.048-858-5500